

# 図書案内

2023年 9月号

担当 23H 内山 26H 堂後 33H 西田 35H 竹内

## スポーツの秋

皆さんは秋といえば何を思い浮かべますか？紅葉の秋？きれいなあ。それとも、食欲の秋？おいしいなあ。図書委員会としては「読書の秋！」と叫びたいものですが、今回の図書案内のテーマは「スポーツの秋」です。

日本で「スポーツの秋」と言われるようになったきっかけは 1964 年に行われた、東京オリンピック（体育の日）だそうです。体育の日を中心にスポーツを楽しむ風潮が生まれ、この富山中部高校でもこの間体育大会が開催されました。

普段運動しない人もこれを機に運動してみたいはかが？

『チア☆ダン「女子高生がチアダンスで全米制覇しちゃったホントの話」の真実』  
／円山夢久



チアダンスは「常に笑顔で人を応援し元気づける」ダンスとして定義されています。チア☆ダン「女子高生がチアダンスで全米制覇しちゃったホントの話」は主人公の友永ひかりがチアダンス部に入部しチームメイトと支えあいながら鍛錬に励み、チームを引っ張りながら優勝を目指すという物語で、映画化やドラマ化もされている作品です。本著はそんな物語を、顧問の先生の五十嵐先生を中心に第三者からの視点から描かれたノンフィクション作品であり、映画やドラマとは違った楽しみ方もできます。映画やドラマを見たことがある人にもない人にもぜひ手に取っていただきたい作品です。（内山）

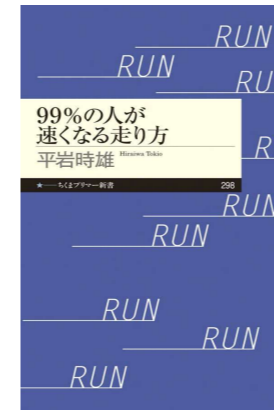
「本当に、夢はかなうんだ！」



## 体育大会の豆知識

日本で最初の運動会は 1874 年に海軍兵学寮にて開催され、当時は「競闘遊戯」という名称だったようだ。海軍兵学寮本科生、予科生をはじめとする 200 名を超える学生が集められ、数日前から練習に取り組んだとのこと。また、競闘遊戯の開催は新聞でも報道されたようなのだが、当時の庶民からは「公費で学生に娯楽を与えるなんてとんでもない」などの投書が数多く届いたそうだ。運動会の競技の一つに「パン食い競走」というものがあるのをご存知だろうか。徒競走のコースの途中に物干し竿のような棒にパンがぶら下がっていて、走者はそれを手を使わずに口だけでくわえ取りゴールまで向かうというルールでの競技だ。私は実は子供の頃からずっと疑問に思っていた、なぜこんな競技が運動会の中にあるのか、と。もちろん、パンがもらえるのは嬉しい。だが、競技にまでする意味はあるのだろうか。どうやらパン食い競走も運動会の開始当初からある競技の一つであることがわかった。さらに面白いのは、近所のパン工場が作り損なった失敗作のパンを海軍兵学寮に押し付けたため、無理やり競技に組み込んだようなのだ。失敗作のパンを無理やりにも使って新たな競技を作ってしまうという主催者側の苦肉の策に思わず感心してしまうエピソードだ。

『99%の人が速くなる走り方』／平岩時雄



運動が得意な人も苦手な人もいますが、やっぱり徒競走で速く走れたら嬉しいですね！こちらの「99%の人が速くなる走り方」という本は、短距離走を得意にするためのトレーニング方法が図とともにわかりやすく説明されています。また、とても面白い文章になっていて読みやすく、また有名なプロスポーツ選手の話なども載っているので足を速くする目的がない人でも楽しく読むことができます。（堂後）

「スポーツは相手とのスピードが勝負」

『風が強く吹いている』／三浦しをん



駅伝って何？走るってどういうことなんだ？  
今やお正月の風物詩となった箱根駅伝。10 人のランナーがそれぞれの思いを胸にチームのタスキをつなぐ。

この物語は主人公のハイジ、天才ランナーカケル、そして個性豊かな青竹荘の住人が一丸となって箱根駅伝を目指す物語です。10 人それぞれが自分の抱えている問題と向き合いながら、駅伝を通して選手として、人間として成長していく様子にあなたはきっと心打たれることでしょう。また、この物語では箱根駅伝に出場するまでのシステムや大会の舞台裏も細かく描写されており、現実ではありえない奇跡を連発しているわりにリアリスティックな部分もあります。陸上界では駅伝シーズンが始まり、「都大路（高校駅伝）だー」、「箱根駅伝だー」と盛り上がりを見せていますが、あなたもこの「風が強く吹いている」を読んで駅伝の楽しさを味わってはいかが？（西田）

「好きなら走れ、以上。」



『階段ランナー』／吉野万理子

家族のトラブルで水泳部を退部した奥貫広夢。卓球全日本選手権で突然、体の異変に見舞われた三上瑠衣。高校二年生の二人はそれぞれに悩みを抱えていた。前向きになるきっかけを作ってくれたのは階段との出会いだ。

「決意の階段」「勝負の階段」「あきらめない階段」――。社会科教師、高桑がブログで紹介する記事を読むうちに、二人は階段に魅了されていく。ある日、高桑から「京都駅大階段駆け上り大会」の存在を教えられる。171 段をチームでダッシュするタイムアタック戦だ！（竹内）

「僕らならどこまでも登っていける！」

引用文献：[https://irodori-lifestyle.com/blog/undoukai\\_mamechishiki/](https://irodori-lifestyle.com/blog/undoukai_mamechishiki/)